

熊本県立熊本西高等学校 平成26年度学校評価表

1 学校教育目標

校訓 **清・明・和**（「清」とは規律・秩序を表す。「明」とは自由・創造を表す。「和」とは調和・奉仕を表す。）の教えを根幹とし、知・徳・体の調和の取れた文武両道の教育をとおして、世界的視野に立った日本人の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

＜めざす生徒像＞

“高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒”

～個性を生かし、自己の思い描く未来の実現に向かって

果敢に挑戦する意志と情熱を持って、前向きに努力を継続しよう～

＜具体的取組重点事項＞

- 1 学力の向上 ・ ・ ・ 魅力的な授業創造と進路保障のための学力向上を推進する
- 2 基本的生活習慣の確立と生徒指導の徹底 ・ ・ ・ 基本的生活習慣を出発点とする
- 3 個に応じた個を大切にされた指導の徹底 ・ ・ ・ 生徒理解を深める
- 4 進路意識の高揚 ・ ・ ・ 行ける進路から行きたい進路実現を実現する
- 5 部活動の充実 ・ ・ ・ 人間力を高める

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価 4段階	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実と土曜授業の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日体験入学、西高公開の日、西高説明会の内容充実 ・ 広報誌の内容充実 ・ 学校HPの随時更新（更新回数100回以上） ・ 土曜授業活用による保護者や地域との交流や行事等の開放 ・ 学校評議員会の年間2回実施（学校評価や本校取組の検証） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の取組内容にプラスワンの視点を取り入れ内容を充実させる。 ・ 担当部署が中心となり、他の部との連携のもと、学校全体として取り組む。 ・ 可能な限り、生徒（会）主体を目指し、生徒が活躍する場を設定する。 	3. 2	保護者対象アンケートの「開かれた学校づくり」の項目では4段階で3. 2の評価であった。一日体験入学には昨年度比+60名で600名を超える中学生の参加があった。西高新聞や今年度新規に取り組んだ「西高NOW」については、県内全中学校にも送付することで情報発信の充実を図った。土曜授業活用による保護者や地域との交流・行事等の開放については、実施回数や時期、参加者数が少ない点など課題が残るので、本校の魅力を十分に発信できるように、取組の内容等に検討を加えていく。
	スクールアイデンティティの確立	生徒・保護者・地域が求める西高づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特進クラスの高大連携事業、小・中・高連携事業の充実 ・ 創立40周年記念関連事業の成功 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 40周年記念事業については、式典や関連行事を概ね、成功裏に実施することができた。城山小学校での「ふれあい教室」は日数増の要望があり、充実した取組となっている。特進クラスの高大連携については、取組内容や方法に課題が残るので、検討を加えて充実したものにしていきたい。 		

学力向上	授業力の向上	「西高で目指す授業」を念頭に置いた教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業・公開授業の充実（相互授業見学200件以上） 生徒による授業評価の実施と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「西高で目指す授業」への全職員による日々の取組 研究授業及び合評会の充実、授業見学レポートの活用 生徒による授業評価結果を個々の職員で活用し、授業改善に努める。 	2. 9	年度当初に「西高で目指す授業」を設定し、1、2学期に研究授業旬間で全教科が研究授業・合評会を実施したが、目指す授業を目標にした日々の授業改善という点ではまだ十分とは言えないので、継続した取組が必要である。生徒による授業評価については、本年度で2年目である。教科ごと及び個人の評価結果を配付し、授業力向上に繋がっているところである。
	自学力の育成	宅習時間の確保	平日2時間（1、2年）、3時間（3年）確保	<ul style="list-style-type: none"> 宅習時間調査の年3回実施と活用 セルフチェックノートの活用 教科課題の工夫、チェックの徹底 	2. 2	宅習時間調査を学期ごとに行っている。結果（11月実施分）は、1年67分、2年52分、3年80分であり、目標の半分ほどである。家庭学習は評価にあるとおり、本校の大きな課題であるので、授業改善と合わせて、取組の充実と継続が必要である。
キャリア教育（進路指導）	学力の充実	対外模試の偏差値	以下の偏差値平均を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> 1、2年は国48以上、数46以上、英語45以上 3年は国・数・英45以上 理・地歴公民は48以上 	「西高で目指す授業」に向け、全職員で取り組みながら生徒のやる気を引き出すことで学力の充実を図る。	2. 2	目標として設定した偏差値には、どの教科も届いていない実情である。生徒の意欲を引き出し、学力充実に繋げるような授業の工夫に全職員でさらに取り組んでいく必要がある。目標数値については、実態に応じたものになるように検討したい。
	一人一人の進路目標達成	<ul style="list-style-type: none"> 進路実績 進路意識の涵養 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度を上回る進路実績を上げる。（国公立大合格者30人） 夢や目標を与える取組の実施 インターンシップの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路相談、面談の充実 個別指導・面接指導・学力検討会の充実 日本や熊本で活躍する人による講演会の実施 生徒の適性等を考慮したインターンシップの実施、受入先開拓 	2. 9	学力検討会を各学年で2回、3学年では個々の生徒の能力や適性を考慮した進路判定会を3回実施した。また、担任等による面談や個別指導も充実したものになっている。その結果、現時点で国公立大学合格者22名と昨年度（17名）よりよい結果が出ている。インターンシップについては、ほぼ昨年度並みの62名の生徒が参加し、受入先開拓も行うことができた。国公立大学だけに執着するのではなく、個々の生徒にとって、行く意義のある大学への進路指導を充実させていきたい。

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守 ・爽やかなあいさつ ・正しい着こなし 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の遅刻者数3.5人(昨年度3.9人) ・生徒対象アンケートの挨拶・時間厳守・服装の項目平均3.2以上(満点4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による毎朝の遅刻指導 ・地域と連携した挨拶推進運動、職員からの率先した挨拶励行 ・機を逃さない服装指導 ・生徒会による挨拶・交通指導等への指導・支援 	3.0	遅刻者数は2学期末時点で1日平均3.6人、生徒対象アンケートの挨拶や服装等の項目の評価平均は3.1であった。また、生徒会による挨拶や交通指導についても充実してきたところである。ただ、ほぼ目標数値は達成できているものの、全職員が一枚岩となった指導という点では課題も残る。
	能動的言動の育成	<p>各行事における生徒の自主性の育成</p> <p>高い志及び目標を持った高校生生活実現の支援(プラスワンの指導)</p>	<p>生徒が主体となった行事の企画・運営</p> <p>全生徒が目標を持った、張りのある毎日を送る。(生徒対象アンケート項目平均3.0以上)</p>	<p>学校行事等において可能な限り、職員主体から生徒主体への移行を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標を与える講演会等の実施 ・全職員による様々な場面での声かけ・励まし等の支援 	2.9	生徒対象アンケート「生徒会の主体性」、「張りのある生活」の項目の平均は、それぞれ、3.0、2.8で目標数値の達成はできなかったが、生徒会が主体となった取組が充実してきたことは評価できる。今後もさらに生徒の主体性を伸ばす取組を進めていきたい。
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ISOの取組推進	生徒対象アンケートの美化・省エネの項目平均3以上(満点4)	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による掃除指導の徹底 ・細めな消灯・節電・節水 	2.8	生徒対象のアンケート「美化・省エネ」の項目の平均は2.8であり、意識の低い生徒がいることも事実である。掃除や省エネの指導については、全職員が一丸となった指導が必須なので、さらに職員の意識を高める必要がある。
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部落問題、水俣病、ハンセン病等についての講話の実施 	3.1	職員研修については、水俣病についての講話やハラスメント防止研修を実施した。また、「命を大切にすることを育む指導」プログラムに従い、教科等での取組を実施するとともに、職員全員が個々の取組も行った。生徒対象アンケートの関連項目の平均は3.0であり、目標数値には届いていないので、生徒会による取組の充実も含めてさらに全職員で推進していきたい。
	命を大切にすることを育む心	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象アンケートの「命を大切にすることを育む心」の項目平均3.5以上(満点4) ・西高チャレンジウォークやボランティア活動等の体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「命を大切にすることを育む指導」プログラムの策定 ・教科指導において生命の大切さについて指導を2学期までに1つ以上実施(授業内容や授業方法等)、教科指導のない職員は校務分掌等で取り組む。 ・生徒会による取組への指導・支援 		

いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率100% ・生徒会による取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校いじめ防止基本方針に従い、未然防止及び早期対応に努める。 ・本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用 ・生徒会による取組への指導・支援 	3. 1 (3.1) (3.0)	いじめ防止基本方針に従った取組や本校独自の「こころのアンケート」実施により、いじめの未然防止や早期対応に取り組むことが概ねできている。また、生徒会による取組も充実したものとなった。いじめ事案が皆無ではないので、未然防止と早期対応にさらに取り組んでいく必要がある。
理数科教育	理数科教育の充実	進路実績 理数科のPR充実	課題研究やSPP事業・高大連携事業を充実させ、生徒の進路意識を高める。 ・中高連携の取組充実 ・定員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や研究の発表スキル向上 ・実習の事前・事後指導の充実、中間まとめの実施 ・理数科体験プログラム、土曜授業での公開等実施 ・学校説明会やHPの活用、理数科便りの発行（月1回） ・在校生、職員による中学校訪問等（在校生は全員1回以上） 	3. 1 (3.0) (3.1)	課題研究等での発表スキルの向上については、課題が残る。情報発信については、HPでの理数科関連情報の掲載は19回行ったが、理数科便りの発行については達成できていない。また、在校生や職員による市内全中学校訪問を実施し、本校理数科のPRを行った。今年度から実施する前期選抜の出願者数は38名となっているところである。今年度の後期選抜を含め、理数科の定員確保や活性化に向けて、今後もできる限りの取組を実施していく必要がある。

4 学校関係者評価

【評価項目や評価結果について】

- 校訓「清・明・和」のもと、知・徳・体に調和の取れた文武両道の教育は素晴らしい目標である。
- 評価項目や取組は充実している。さらに時代に合ったものへの進化を期待したい。
- 生徒にとってバランスの取れた重点目標となっている。評価においては先生方の目標に対する意識の高さが感じられる。
- 適切な項目や目標の設定がなされており、どの項目においても取組に努力の跡が見られる。
- 今年度から、校訓に加えて「目指す生徒像」の周知がアンケート項目に追加され、評価が少し下がっている。大切な項目なので、様々な場で啓発をする必要がある。
- 学力面や保護者のPTAへの参加・協力の面で課題があるので、取組を充実させてほしい。
- 学力向上、キャリア教育の評価が他の項目と比べて低いので、特に生徒の興味・関心を引く授業展開を工夫するなど授業改善が必要である。他の項目については、十分な取組がなされている。
- 学校評価のまとめ方や年度ごとの比較等、わかりやすく表示されている。今年度から、生徒対象のアンケート項目に「私は西高に入学してよかった」が追加されたが、とても知りたい項目であったので継続してほしい。
- 過年度比較ができるように毎年ほぼ同じ項目を設定するのは有効である。評価の低い項目については、次年度に向けてプラスワンの視点を取り入れて取組を充実させてほしい。
- 課題の残る項目については即効性のある方策はなかなか見つからない。中、長期的な取組を考える必要がある。

【各項目について】

①学校経営

- 開かれた学校づくりについては高い評価である。取組を継続してほしい。
- 保護者や地域、近隣小中学校、大学等との連携強化は開かれた学校づくりに必須である。情報発信の充実にもさらに力を入れながら、50周年に向けて取り組んでほしい。
- 全体的には4段階評価で3程度なので概ね良好である。
- 地域の自治会と連携・協力した取組ができればよいのではないか。

②学力向上

- 生徒一人一人にやる気を起こさせる授業に向けて取り組んでほしい。
- 学力面でもう少し向上すれば、さらに色々な意味で学校全体が良くなっていくと思う。
- 宅習時間の確保については、残念ながら毎年の課題となっている。もっと根本的な取組が必要ではないか。
- 家庭学習時間の不足が授業の理解度にも繋がっている。地域性もあり難しい面もあるが、家庭学習時間確保の取組を継続して行ってほしい。
- 他の項目に比べ、評価が明らかに低い。西区の重要課題でもある。
- 西高の公開授業に参加して英語の授業を参観したが、生徒の活動が重視されていることに感動した。
- 生徒にとって学習以外で興味をそそられるものが多すぎる環境であるが、生徒が「学習したい」と思うような魅力のある授業を心がけることで生徒にしっかり勉強させてほしい。

③キャリア教育

- 現在の取組を地道に継続して行ってほしい。
- 卒業生を含め、もっと多くの人から職業についての話を聞く機会を持った方がよい。
- インターンシップについては卒業生として協力できることがあると思うので、利用してほしい。
- 進学実績を上げることが生徒募集に直結する。

④生徒指導

- 生徒指導に関しては、従来から十分な取組がなされていると思う。
- 基本的な生活習慣の定着が宅習時間の確保に繋がる。
- ボランティア活動やインターンシップなど、社会との接点のある活動を多く取り入れ、生徒の気づきに繋げてほしい。

- 職員の意識が高く、保護者も良好との認識をしていると思う。
- 挨拶については、校内では良好のようであるが、校外での挨拶はまだまだ不十分な状況である。

⑤人権教育の推進

- 命を大切にす心教育の充実やいじめに対する意識の高さを感じる。さらに、人権教育の推進に力を入れてほしい。
- 人権意識の育成についての評価は3程度であり、概ね良好である。職員の意識の高さと関係していると思う。
- 特性のある生徒については、中高連携をさらに強化する必要がある。

⑥いじめの防止等

- 事案が皆無ではないという実情であるので、事前防止や早期解消に向けての指導を継続してほしい。
- いじめの防止等についての評価は3程度であり、概ね良好である。

⑦理数科教育

- 教育内容は興味深いものであり、積極的にPRが行われている。
- 入学時の志望理由や敬遠する理由等もしっかり把握した上で、広報に生かしてほしい。
- 今後も、中学生に積極的な理数科についての啓発を続けることが大切である。

【その他】

- 高校教育が生徒の将来に与える影響は大きい。学校、保護者そして地域が信頼しあい、連携・協力していく必要がある。
- 創立50周年事業は盛会であった。50周年に向けてすでにスタートを切っている西高に活力を感じる。
- 学力向上等、近隣中学校の重要課題が西高でも課題になっていると感じている。中学校での教育活動を充実させて、西高での課題の改善に繋げていきたい。

5 総合評価

今年度は、評価項目等に、土曜授業活用による開かれた学校づくり、「西高で目指す授業」を念頭に置いた授業力向上、学校行事・各部の取組やいじめ防止の取組等における生徒（会）の主体性等を追加し、目指す生徒像「高い志を持ち、夢実現に向かって輝く生徒」の達成に向けて全職員で取り組んだ。全体としては、全項目の評価平均が2.9（4段階評価、昨年度平均2.9）となっており、まずまずの目標達成ができたと判断している。個別の項目では、昨年度同様に、「開かれた学校づくり」（評価3.2）及び「スクールアイデンティティの確立」（評価3.2）が高い評価となった。近隣小中学校や大学等との連携事業の充実や40周年記念事業の成功等が高い評価に繋がっていると考えられる。評価の低かった「自学力の育成」及び「学力の充実」（ともに評価2.2）については、学校評議員からの助言にもあるように、基本的な生活習慣の定着ややる気を起こさせる教科指導等への取組をさらに充実させていく必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

- 学校評価全体としては、「高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒」の育成を目指し、本年度の成果と課題をしっかりと検証したうえで目標達成に向けて取り組んでいきたい。
- 「開かれた学校づくり」及び「スクールアイデンティティの確立」については高い評価であるが、情報発信の充実や保護者・地域との連携強化等の面で課題もあるので、土曜授業の活用等も含めて取組の充実を図っていきたい。
- 「自学力の育成」及び「学力の充実」は本校の大きな課題である。毎日の授業が一番大切であるという基本を再確認して、「西高で目指す授業」を念頭に置いた、生徒の興味・関心を高める授業づくりに日々取り組んでいくことを徹底させていきたい。
- 生徒（会）の自主性の育成については、さらに次年度も取組を継続させていく。
- 理数科の定員確保に関しては、現時点では達成できていない状況である。理数科教育の取組内容や情報発信方法等について再検討し、定員確保を含め、理数科の充実に努めていきたい。